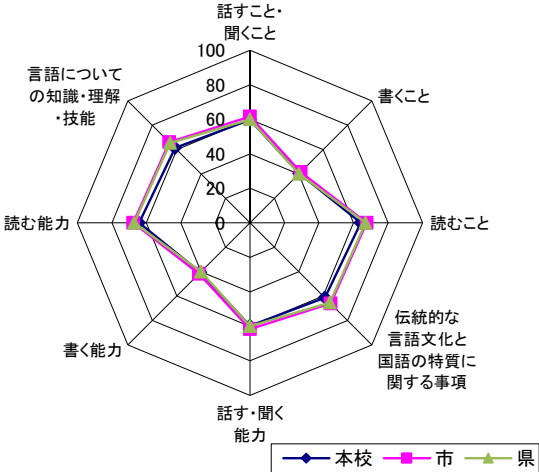


宇都宮市立鬼怒中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	59.7	61.6	59.9
	書くこと	40.5	41.7	40.1
	読むこと	64.2	67.6	67.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	61.3	66.1	65.4
観点	話す・聞く能力	59.7	61.6	59.9
	書く能力	40.5	41.7	40.1
	読む能力	64.2	67.6	67.0
	言語についての知識・理解・技能	61.3	66.1	65.4



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○必要に応じて質問しながら話を聞き取る問題では、県平均を0.7ポイント上回っている。 ●事実と意見との関係に注意して話を構成する問題の正答率は12.2%であり、市平均、県平均ともに下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・人の話に真摯に耳を傾ける態度と雰囲気醸成する。 ・学習活動の中で、人の話に対して意見や考えを持ち、それを言葉にする練習をくり返し行う。 ・班活動や話し合い活動を積極的に行い、司会者の経験をさせ、進め方の工夫について理解させる。
書くこと	○カードを基に、前につながる形で言葉を書いたりする問題の正答率は、市平均、県平均ともに上回っている。 ●カードを基に考えの根拠を明確にしたり、文章の構成を考えて鑑賞文を書いたりする問題では、市平均、県平均ともに下回っている。	・授業の中で、書く時間を多く設定し、根拠をもとに意見や考えを文章にする練習を行う。 ・文章を書く時間の後に、書き方の工夫について意見交換をし、推敲する練習をくり返し行う。
読むこと	○文学的文章の読解では、描写を踏まえて登場人物の心情を捉える問題において、正答率が市平均、県平均とともに上回った。 ●説明分の内容の理解では文中の語句が指す内容を捉えたり、目的に応じて要約したり要旨を捉えたりして読む問題では、市平均より5ポイント以上下回っている。 ●文学作品の内容の理解では描写や会話文を基に、登場人物の心情の変化を捉える問題では市平均、県平均がともに約5ポイント下回っている。	・授業の中で言葉の意味を確認する時間を増やすとともに、分からない言葉に関しては、辞書を引いて意味を確認する習慣をつけさせる。 ・読書の機会を増やすとともに、様々なジャンルの本に興味を持たせるよう読書指導を行う。 ・文章構成をしっかりと押さえた授業をする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●漢字の読み・書きについては、学力層別に見ると、AB間、BC間に比べてCD間の差が大きい。 ●文節の分け方の問題では、正答率が市平均、県平均ともに7ポイント以上下回っている。	・個別に漢字の書き取りの宿題を課すなど、漢字練習の習慣をつけさせる。 ・小テストを定期的実施し、文節の分け方についての知識の定着を図る。